

平成 30 年度第 1 回市民意識調査結果概要

(総務局広報部市民の声を聞く課 TEL 211-2045)

■ 設計

調査期間	平成30年(2018年)7月20日(金)～8月3日(金)
調査方法	郵送法
調査対象者	札幌市全域の満18歳以上の男女5,000人
抽出方法	住民基本台帳からの等間隔無作為抽出法

■ 回収結果

回収数	2,463通
回収率	49.3%

■ テーマごとの設問と主な結果 ※構成比(%)は、小数点以下第2位を四捨五入しています。

テーマ1 雪対策に関する取組について

札幌市では、ゆたかな冬の暮らしの実現に向けて、市民の皆さまや企業などと協働して雪対策に取り組んでいます。そこで、皆さまの冬の暮らしに関する取組の現状などについてお聞きし、今後の雪対策の参考とさせていただきます。

問1 除雪ボランティアの中で行ったことがあるもの

ア つるつる路面への砂まき

「1～2回」	14.9%
「3回以上」	16.6%
「行ったことがない」	54.4%

イ ごみステーション周りの除雪

「1～2回」	8.9%
「3回以上」	22.6%
「行ったことがない」	54.4%

ウ 消火栓周りの除雪

「1～2回」	1.8%
「3回以上」	5.3%
「行ったことがない」	73.0%

エ バス停周りの除雪

「1～2回」	0.7%
「3回以上」	1.1%
「行ったことがない」	76.5%

オ 近所の除雪の手伝い

「1～2回」	8.5%
「3回以上」	18.1%
「行ったことがない」	56.7%

カ 福祉除雪

「1～2回」	0.9%
「3回以上」	1.7%
「行ったことがない」	75.8%

キ その他

「1～2回」	0.2%
「3回以上」	1.4%

《問1で『除雪ボランティア』を1回以上行ったことがあると答えた方を対象》

問1-1 除雪ボランティアを始めたきっかけ（複数回答） ※上位3項目

「自発的に始めた」	56.2%
「町内会の行事」	15.4%
「家族からの誘い」	4.4%

問2-1 路上駐車をしないことの認知度

「知っている」	92.5%
「知らない」	5.6%

問2-2 路上駐車しないことを実践しているか否か

「実践している」	65.1%
「実践していない」	2.3%
「実践する機会がない」	26.7%

問2-3 路上駐車しないことを実践していない理由（複数回答） ※上位3項目

「短い時間だけ駐車している」	55.4%
「駐車禁止場所ではない」	26.8%
「付近に駐車スペースがない」	16.1%

問3-1 敷地内から道路へ雪出しをしないことの認知度

「知っている」	91.8%
「知らない」	6.3%

問3-2 敷地内から道路へ雪出しをしないことを実践しているか否か

「実践している」	70.9%
「実践していない」	6.5%
「実践する機会がない」	17.8%

問3-3 敷地内から道路へ雪出しをしないことを実践していない理由（複数回答） ※上位3項目

「雪置きスペースに余裕がない」	62.1%
「すぐに除排雪が入る」	20.5%
「雪置きスペースまで運べない」	14.9%

問4-1 除雪車が間口に寄せた雪の処理は各家庭で行うことの認知度

「知っている」	82.1%
「知らない」	15.1%

問4-2 除雪車が間口に寄せた雪の処理は各家庭で行うことを実践しているか否か

「実践している」	67.8%
「実践していない」	2.7%
「実践する機会がない」	25.3%

問5-1 ごみは収集日当日の朝8:30までに出すことの認知度

「知っている」	94.8%
「知らない」	3.1%

問5-2 ごみは収集日当日の朝8:30 までに出すことを実践しているか否か

「実践している」	83.8%
「実践していない」	3.9%
「実践する機会がない」	9.5%

問6 雪に関する情報発信の認知度（複数回答） ※上位5項目

「除雪パートナーシップ制度」	35.0%
「冬の路面の歩き方」	33.3%
「冬の暮らしに関するルールやマナー」	29.6%
「冬や雪に関するイベント情報」	28.9%
「冬の道路や交通機関の情報」	23.8%

《問6で『雪に関する情報発信』を見たことがあると答えた方を対象》

問6-1 雪に関する情報発信を見た媒体（複数回答） ※上位3項目

「冬の暮らしガイド（広報さっぽろ12月号綴じ込み）」	73.8%
「テレビのデータ放送（HTB、NHK、HBC、UHB）」	39.1%
「ホームページ（冬の暮らし・除雪、札幌ゆきだるまプロジェクト）」	9.9%

問7 冬の暮らしに関する情報への興味（複数回答） ※上位5項目

「冬の道路や交通機関の情報」	43.1%
「除雪車の出動条件や出動情報」	39.5%
「冬の暮らしに関するルールやマナー」	24.9%
「冬や雪に関するイベント情報」	23.9%
「除雪パートナーシップ制度」	18.9%

問8 冬期間の路上駐車に対する注意・指導・取締りの状況（複数回答） ※上位3項目

「町内会などで注意・指導している」	20.8%
「警察が取締りをしている」	9.1%
「札幌市の職員が指導している」	0.4%
※「注意・指導・取締りは行われていない」	14.1%

問9 冬期間の路上駐車に対する注意・指導・取締りの効果

「効果があると思う」	40.4%
「一時的に効果はあるが、改善されないと思う」	43.5%
「効果がないと思う」	3.9%
「わからない」	9.3%

問10 冬期間の路上駐車への減り方

「かなり減ったと思う」	13.2%
「少し減ったと思う」	29.4%
「あまり減っていないと思う」	16.8%
「全く減っていないと思う」	5.9%
「わからない」	32.4%

問11 札幌市や町内会などの地域による排雪が行なわれたか否か

「札幌市や町内会などの地域による排雪が行われた」	73.3%
「札幌市や町内会などの地域による排雪は行われなかった」	5.1%
「わからない」	18.9%

問 1 2 民間企業などによる有料除排雪サービスの利用の有無

「民間企業などによる有料除排雪サービス(雪が降る前に申込)を利用した」	18.8%
「民間企業などによる有料除排雪サービス(冬の途中で申込)を利用した」	1.8%
「利用していない」	75.1%

テーマ 2 札幌市における自殺対策の取組について

札幌市では「ひとりでも多くの命を救う」ことを目標に自殺総合対策事業を行っています。そこで、市民の皆さまの自殺に関する意識をお聞きし、今後の自殺対策の参考とさせていただきます。

問 1 3 自殺対策の取組の認知度(複数回答) ※上位 3 項目

「北海道いのちの電話」	46.4%
「札幌こころのセンター 心の健康づくり電話相談」	26.3%
「Webサイト「札幌こころのナビ」」	2.0%
※「知っている取組はない」	35.6%

《問 1 3 で自殺対策の取組を知っていると答えた方を対象》

問 1 3 - 1 自殺対策の取組を認知した方法(複数回答) ※上位 5 項目

「広報さっぽろ」	37.7%
「ポスターやチラシ」	33.9%
「テレビ・ラジオ」	30.8%
「新聞・雑誌」	23.2%
「公共施設やその窓口など」	13.6%

問 1 4 自殺対策のPRの認知度(複数回答) ※上位 3 項目

「「いのちの問題かもしれません」ステッカー(トイレステッカー)」	20.0%
「地下鉄ホーム柵ステッカー」	16.1%
「地下鉄車両内広告」	15.7%
※「この中に知っているものはない」	46.9%

問 1 5 自殺に関する考え方

ア 自殺問題は身近な問題

「そう思う」	24.5%
「どちらかというと思う」	21.8%
「どちらともいえない」	25.3%
「どちらかというと思わない」	11.1%
「そう思わない」	10.1%

イ 自殺は社会的な問題によるものも多い

「そう思う」	38.3%
「どちらかというと思う」	32.0%
「どちらともいえない」	18.1%
「どちらかというと思わない」	2.9%
「そう思わない」	2.4%

ウ 自殺は個人の意思や選択の結果ではない

「そう思う」	26.1%
「どちらかというと思う」	28.1%
「どちらともいえない」	32.2%
「どちらかというと思わない」	3.5%
「そう思わない」	4.1%

エ 話をきくことは最大の支援となる

「そう思う」	43.1%
「どちらかというと思う」	32.3%
「どちらともいえない」	15.1%
「どちらかというと思わない」	1.7%
「そう思わない」	2.0%

問16 悩みや苦勞、ストレス、不満を感じる問題

ア 家庭の問題

「感じない」	42.2%
「かつてあったが今は感じない」	22.9%
「現在感じている」	27.0%

イ 健康の問題

「感じない」	43.0%
「かつてあったが今は感じない」	15.1%
「現在感じている」	35.5%

ウ 経済的な問題

「感じない」	53.1%
「かつてあったが今は感じない」	15.5%
「現在感じている」	23.4%

エ 勤務関係の問題

「感じない」	45.2%
「かつてあったが今は感じない」	22.6%
「現在感じている」	20.9%

オ 恋愛関係の問題

「感じない」	70.6%
「かつてあったが今は感じない」	11.9%
「現在感じている」	6.3%

カ 学校の問題

「感じない」	65.9%
「かつてあったが今は感じない」	15.2%
「現在感じている」	5.0%

キ その他

「かつてあったが今は感じない」	1.2%
「現在感じている」	1.8%

問17 悩みや苦勞、ストレス、不満を感じたときの対処方法（複数回答） ※上位5項目

「趣味やレジャーを楽しむ」	41.2%
「睡眠をとる」	39.1%
「友人や同僚に話を聞いてもらう・相談する」	36.2%
「家族に話を聞いてもらう・相談する」	34.5%
「体を動かす・運動する」	32.6%

問18 自殺を考えた体験

「死のうとしたことがある」	4.8%
「死のうと思ったことがある」	15.3%
「どちらもない」	66.9%

《問18で「死のうとしたことがある」または「死のうと思ったことがある」と答えた方を対象》

問18-1 自殺を考えた原因(複数回答) ※上位5項目

「家庭の問題(家族の不和、子育て、介護・看病など)」	37.2%
「健康の問題(自分の病気、体の悩み、心の悩みなど)」	26.5%
「勤務関係の問題(転勤、仕事不振、職場の人間関係など)」	24.8%
「経済的な問題(倒産、借金、失業、生活困窮など)」	24.4%
「学校の問題(いじめ、学業不振、進路、学校での人間関係など)」	16.8%

《問18で「死のうとしたことがある」または「死のうと思ったことがある」と答えた方を対象》

問18-2 自殺を思いとどまった理由(複数回答) ※上位5項目

「家族や恋人の事を考えたから」	28.5%
「死ぬのが怖かったから」	28.5%
「友人に相談したから」	14.5%
「家族に相談したから」	10.9%
「医療機関を受診したから」	9.3%

《問18で「死のうとしたことがある」または「死のうと思ったことがある」と答えた方を対象》

問18-3 自殺を思いとどまるためにあればよいと思う事柄(複数回答) ※上位5項目

「心の支えとなるような日頃の人間関係」	48.9%
「相談にのってくれる人」	38.6%
「休みをとれる環境」	24.8%
「死にたいという気持ちに気づいて声をかけてくれる人」	18.4%
「具体的援助」	16.2%

問19 依存症に関する考え方

ア 依存症は病気である

「そう思う」	14.9%
「どちらかというと思う」	18.2%
「どちらともいえない」	31.2%
「どちらかというと思わない」	12.5%
「そう思わない」	16.9%

イ お酒やギャンブルはストレス発散につながらない

「そう思う」	30.3%
「どちらかというと思う」	17.3%
「どちらともいえない」	28.1%
「どちらかというと思わない」	11.5%
「そう思わない」	7.1%

ウ トラブルは家族が肩代わりするべきではない

「そう思う」	29.0%
「どちらかというと思う」	19.8%
「どちらともいえない」	36.3%
「どちらかというと思わない」	5.3%
「そう思わない」	3.5%

エ 専門機関に相談することが大切

「そう思う」	53.6%
「どちらかというと思う」	28.5%
「どちらともいえない」	8.4%
「どちらかというと思わない」	1.4%
「そう思わない」	2.4%

オ 本人が依存の問題を認めることから回復が始まる

「そう思う」	62.1%
「どちらかというと思う」	22.5%
「どちらともいえない」	6.9%
「どちらかというと思わない」	0.9%
「そう思わない」	1.9%

カ 依存症の回復には時間がかかる

「そう思う」	66.3%
「どちらかというと思う」	19.0%
「どちらともいえない」	6.8%
「どちらかというと思わない」	0.9%
「そう思わない」	1.4%

問20 ゲートキーパーの認知度

「言葉の意味をよく知っていた」	3.0%
「言葉の意味を多少は知っていた」	6.5%
「言葉の意味は知らなかったが、「ゲートキーパー」という名称は知っていた」	5.2%
「「ゲートキーパー」という名称を知らなかった」	80.5%

問21 悩んでいる人にきづいたときの対応方法（複数回答） ※上位3項目

「声をかけてじっくりと話を聞く」	34.5%
「心配していることを伝えて見守る」	26.9%
「話しかけず、そっとしておく」	3.2%

問22 悩んでいる人の話をきいたことがあるか否か

「話をきいたことがある」	43.0%
「話をきいたことはない」	46.2%

《問22で「話をきいたことがある」と答えた方を対象》

問22-1 悩みについての話をきいた相手（複数回答） ※上位5項目

「友人」	53.1%
「学校・職場の人」	36.5%
「同居の家族・親族」	26.5%
「同居以外の家族・親族」	21.8%
「知人」	14.8%

《問22で「話をきいたことがある」と答えた方を対象》

問22-2 話をきいた相手の悩みの種類（複数回答） ※上位5項目

「勤務関係の問題（転勤、仕事不振、職場の人間関係など）」	52.6%
「家庭の問題（家族の不和、子育て、介護・看病など）」	50.9%
「健康の問題（自分の病気、体の悩み、心の悩みなど）」	40.7%
「経済的な問題（倒産、借金、失業、生活困窮など）」	25.7%
「恋愛関係の問題（失恋、結婚の悩みなど）」	22.8%

問23 自殺を考えていると打ち明けられたときに望ましいと思う対応方法（1つだけ○）

※上位3項目

「話してくれたことをねぎらい、じっくりと話を聞く」	63.2%
「世の中にはもっとつらい人がある」などと説得する	5.5%
「きっと大丈夫」などと励ます	2.8%

問24 自殺を考えていると打ち明けられたことがあるか否か

「打ち明けられたことがある」	12.1%
「打ち明けられたことはない」	77.3%

《問24で「打ち明けられたことがある」と答えた方を対象》

問24-1 自殺を考えていると打ち明けられた相手（複数回答） ※上位5項目

「友人」	39.5%
「同居の家族・親族」	22.7%
「同居以外の家族・親族」	18.7%
「学校・職場の人」	15.4%
「知人」	13.4%

《問24で「打ち明けられたことがある」と答えた方を対象》

問24-2 自殺を考えていると打ち明けられた際に自殺の動機となった原因（複数回答）

※上位5項目

「健康の問題（自分の病気、体の悩み、心の悩みなど）」	48.5%
「家庭の問題（家族の不和、子育て、介護・看病など）」	39.8%
「経済的な問題（倒産、借金、失業、生活困窮など）」	28.1%
「勤務関係の問題（転勤、仕事不振、職場の人間関係など）」	28.1%
「恋愛関係の問題（失恋、結婚の悩みなど）」	16.1%

テーマ3 地域交流の機会について

札幌市では、地域の交流の機会を創出することにより、市民同士の交流や地域のまちづくり活動を促進しています。そこで、市民の皆さまの地域の交流に関する意識をお伺いし、今後の地域の交流推進の参考とさせていただきます。

問25 交流・ふれあいができる機会のイメージ（複数回答） ※上位5項目

「町内会等の地域での活動」	61.2%
「ご近所付き合い」	41.0%
「同じ趣味を持った人との交流」	30.1%
「シニア世代の交流」	27.5%
「子育て世代の交流」	21.2%

問26 交流・ふれあいができる機会の有無

「はい」	41.2%
「いいえ」	49.0%

《問26で「いいえ」と答えた方を対象》

問26-1 交流・ふれあいのできる機会があると感ぜない理由（複数回答） ※上位3項目

「参加したいと思える交流・ふれあいの機会がない」	48.1%
「住んでいる地域で交流・ふれあいの機会がない」	29.9%
「交流・ふれあいの機会に関する情報や案内を耳にしない」	27.8%

問27 交流・ふれあいができる機会への参加の頻度

「毎日」	0.8%
「週に1回以上」	5.6%
「月に1回以上」	8.3%
「年に1回以上」	13.2%
「数年に1回程度」	9.9%
「参加したことはない」	50.7%

《問27で“参加したことがある”と答えた方を対象》

問27-1 参加したことがある交流・ふれあいができる機会（複数回答） ※上位5項目

「町内会等の地域での活動」	66.3%
「ご近所付き合い」	32.8%
「同じ趣味を持った人との交流」	22.9%
「シニア世代の交流」	12.2%
「子育て世代の交流」	11.1%

問28 交流・ふれあいができる機会に参加しやすくなる案内や環境（複数回答） ※上位5項目

「同じ趣味や仕事の人に参加している環境」	32.5%
「町内会等の地域からの案内」	32.1%
「知り合いからの案内」	29.8%
「同世代が参加している環境」	19.2%
「札幌市からの広報等の案内」	18.6%

問29 交流・ふれあいができる機会の情報入手方法（複数回答） ※上位5項目

「広報さっぽろ」	41.7%
「町内会の回覧版」	39.1%
「テレビ」	13.4%
「新聞」	13.3%
「人からの口コミ」	13.0%

結果の概要は札幌市HPに掲載します。

[http://www.city.sapporo.jp/somu/shiminnokoe/citi_enq/]